

コメディカル(co-medical)とは、医師とともに力をあわせて医療を行う医療技術者の総称です。



ご存知
ですか？

AED

自動体外式除細動器
(Automated External
Defibrillator)



臨床工学技士
仲尾次 政隆

『皆さん、AEDをご存知ですか？』

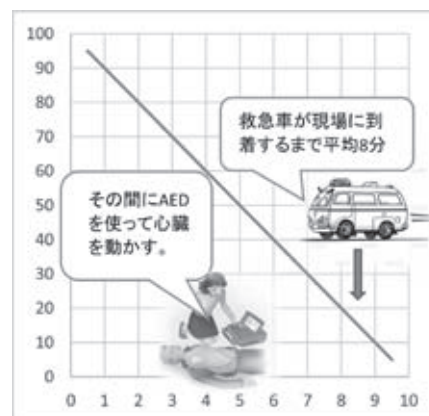
2007年にこのような書き出しでAEDのご紹介をさせていただきました。

当時は、実際のところAEDはあまり普及しておらず、スタジアムや駅、空港など多くの人々が集まる場所にしか設置されていませんでした。しかし現在は中小の商業施設、コンビニエンスストア、バスやタクシーなどにも設置されるようになり、街中の自動販売機に付属しているものもあります。

当院でも以前は1階外来ホールに1台のみ設置されていましたが、現在では2階外来ホール、2階エレベーターホール、7階ドック棟に計4台設置されています。

さて、これだけ急速に普及したAEDですが、皆さん、いざというときにちゃんと使える自信はありますか？

右のグラフは、何らかの原因で心臓が痙攣を起こし、全身に血液が送られない状態(このような状態を『心室細動』といいます)になってから、電気ショック(除細動といいます)をして心臓が再び正常に動き出すまでの時間による救命率を表したグラフです。縦軸に救命率(%）、横軸に時間<分>を表したもので、おおむね1分経過するごとに10%ずつ救命できる確率が下がっており、9分を経過した以降は限りなく0に近い数字になってしまいます。先日発表されたデータでは、119番をしてから救急車が現場に到着するまで、平均で8分半かかるそうです。つまり、救急車をただ待っているだけでは助かる命をみすみす失ってしまう可能性が非常に高くなります。



ここで登場するのがこのAEDです。心室細動を起こした際の唯一の治療法は、一刻も早く除細動器を使って電気ショックを与え心臓を元の動きに戻すことですが、以前は医師以外の方が除細動器を使用することは許されませんでした。しかし実際に誰かが倒れている場面で近くに医師のいる確率は極めて小さいものになり、また医師がいても除細動器がなければどうにもなりません。そこで開発されたのがこのAEDです。AEDは蓋を開けてスイッチを入れれば(最近では蓋を開けるだけでスイッチが入るものが主流です)、あとは音声案内により使い方を教えてくれます。中に入っている電極パッドを患者さんの胸に貼ることにより、機械が心電図を解析して電気ショックが必要かどうかを判断し、必要があれば電気ショックを行う準備をしてボタンを押すよう促します(もちろん、必要がなければボタンを押しても電気は流れません)。

このように誰でも簡単に使用できるような機器ですが、より素早く、より正確に使用するためには講習会等に参加し訓練することをお勧めします。最寄りの消防署などでも定期的に講習会を開催していますし、訓練のイベントを開催している団体もあります。たとえば毎年11月に行われている『用賀コミュニティクラブ』の会場でも、当院職員のボランティアが講習会を開催していますし、直近では5月に新宿で行われる『看護フェスタ<東京都看護協会主催>』でも、東京都臨床工学技士会とのタイアップで講習会が実施され、当院からも職員が派遣されます。

AEDの使用方法を覚えていただくことによって、一人でも多くの方の命を救っていただくことができるよう、ぜひ積極的にご参加いただければと思います。